

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 一人ひとりの可能性をエンパワーし、多様な他者となつがり、多文化共生社会の主体を育成する学校づくりをめざす。
- 1 やる気を引き出し、基礎学力の定着と社会的自立に必要なスキルと態度を身につける。

2 全ての生徒にとって学校が安全で安心な居場所となることをめざす。

3 自主活動の推進、系統的なキャリア教育、社会課題の理解を通して、地域社会に貢献できる生徒を育成する。

2 中期的目標

1 基礎・基本の定着と「わかる授業」「考える力が身につく授業」づくり

（1）「わかる授業」をめざした授業改善に取り組む。

- ア 授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」づくりのための授業改善に取り組み、生徒の基礎学力の向上を図る。
- イ 生徒の学習意欲を高めるための評価方法を研究し、自尊感情が高まる授業、やればできると実感できる授業をめざす。
- ※ 自己診断（生徒）における「授業がわかりやすい」を、令和8年度まで80%を維持する。（R3 78.4%・R4 84.7%・R5 88.8%）

（2）「考える力が身につく授業」をめざした授業改善に取り組む。

- ア 生徒が「考える力」を身につけることができるように授業内容を工夫する。（エンパワメントタイムの内容の充実を全教職員で取り組む。）
- イ 参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼン能力の向上を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。
- ※ 自己診断（生徒）における「自分の考えや意見を伝える力がついた」を、令和8年度まで70%を維持する。（R3 63.2%・R4 72.4%・R5 78.9%）

2 安全安心に学べる環境づくりと進路保障の実現

（1）生徒の居場所がある学校づくり

- ア 様々な生活背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、「誰一人取り残さない（中退防止含む）」学校づくりをめざす。
- イ SC、SWと連携し、生徒情報共有（学年・フォローアップ・職員）会議を行い生徒理解に努める。
- ウ 保健室、カウンセリングルーム、図書室、関係機関と連携することにより、ピアプレッシャーに弱い生徒の居場所を確保する。
- ※ 自己診断（生徒）における「先生は悩みや相談を聞いてくれる」を、令和8年まで70%を維持する。（R3 61.4%・R4 79.0%・R5 80.8%）

（2）進路保障を推進するためのキャリア教育の確立

- ア CCはじめ外部人材を活用しながら、入学から卒業後の進路を見通したキャリア教育を計画的に推進し、卒業生徒の増加と進路未定者を減少させる。
- イ 日々の学習が進路実現につながることを意識し、1年生から3年後を考えた進路保障に取り組む。
- ウ 生徒の問題行動の背景・要因を深く掘り下げ、個々の生徒に応じた「寄り添った支援」を行動変容につなげ、社会的自立に必要なスキルと態度を育成する。
- ※ 就職内定率の向上をめざし、令和8年度まで95%以上を維持する。（R3 98.3%・R4 100%・R5 100%）

3 人権・多様性を尊重する教育の推進

（1）人権教育・国際理解教育の推進

- ア 個の尊厳を重んじ、教職員自身が人権意識・人権感覚を研ぎ澄ますことで、人権尊重に貫かれた教育を徹底し、いじめや差別の未然防止に努める。
- イ GS、CDをはじめ様々な教育活動を通じて人権感覚を養う。
- ※ 自己診断（生徒）における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を、令和8年度まで80%を維持する。（R3 84.9%・R4 93.1%・R5 93.0%）

（2）多文化共生教育の推進

- ア 多様化する渡日生、帰国生の母語保障及び日本語指導を推進し、大阪のモデルとなるような多文化共生の学校づくりをめざす。
- イ すべての生徒・教職員が、様々な教育活動を通じて多文化共生を体感する機会を創出する。
- ※ 自己診断（生徒）における「多文化共生は進んでいる」を令和8年度まで80%を維持する。（R3 72.5%・R4 86.5%・R5 88.6%）

4 魅力発信で選ばれる学校へ

（1）ながよしの魅力発信

- ア 生徒会活動を活発にし、魅力ある学校行事への改善を進め、部活動の活性化を図る。
- イ 地域と積極的に関わることやボランティア活動など「生徒の自主活動」を活性化させ、「地域社会に貢献できる生徒」を育成する。
- ウ 授業を積極的に公開するとともに、授業や行事等の様子を学校説明会やHP等を通じて発信する。
- ※ 特別選抜・日本語指導が必要な特別選抜での志願者の定員充足をめざす。（R4 1.03倍・R5 0.96倍・R6 1.0倍）

（2）学校力の向上で選ばれる学校へ

- ア 校務処理システムやICTの活用を図り、生徒情報を一元管理し、事務作業時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。
- イ ミドルリーダーの育成及び初任者や経験年数の少ない教員の育成を図り学校力を高める。
- ウ 働き方改革の取り組みを進め、外部人材の活用や同僚性を高めることで、校務の効率化を図る。
- ※ ワーク・ライフ・バランスで計画的な休暇取得の推進【新規 独自アンケートにて】

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和6年11月実施分]	学校運営協議会からの意見																																																								
【結果と分析】 ・内容は昨年度と同様。生徒と保護者に関して、各選択肢に「判断できない・わからない」を追加した。 <生徒向け>回答数 474（昨年度 412） ●「③授業はわかりやすい。」に対して、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」（以下、「肯定的回答」とする）併せて 80%以上を維持する。 <table><tr><td>1 年生</td><td>2 年生</td><td>3 年生</td><td>全体</td></tr><tr><td>83.5%(89.5)</td><td>93.5%(85.2)</td><td>87.6%(92.2)</td><td>88.0%(88.8)</td></tr></table> 全体として 88.0%で、目標の 80%を維持し、昨年度と同様高い値であった。特に 2 年生においては 93.5%と高い数値となった。2 年生になり、モジュール授業（30 分授業）がなくなり、2 年生ギャップが近年あったが、教職員の授業改善や工夫が功を奏していると考えられる。また、Chromebook や ICT 機器を活用している（教員、生徒ともに 90%以上）ことも、この結果に表れている。 ●「⑥自分の考えや意見を伝える力が付いたと思う。」に対して、肯定的回答 70%以上を維持する。 <table><tr><td>1 年生</td><td>2 年生</td><td>3 年生</td><td>全体</td></tr><tr><td>69.8%(79.0)</td><td>83.9%(77.0)</td><td>72.3%(80.9)</td><td>75.1%(78.9)</td></tr></table> 全体として 75.1%で、70%以上の維持ができた。「正解が一つでない問題に取り組む」授業のエンパワメントタイムがうまく作用している。ただ、1 年生では 10%減少しており、生徒層の変化に伴い、工夫と改善が必要である。 ●「⑬先生は悩みや相談にいてねいに応じてくれる。」に対して、肯定的回答 80%以上を維持する。 <table><tr><td>1 年生</td><td>2 年生</td><td>3 年生</td><td>全体</td></tr><tr><td>72.0%(76.5)</td><td>81.9%(79.3)</td><td>68.6%(88.7)</td><td>74.3%(80.8)</td></tr></table> 全体として 74.3%で、目標の 80%以上を維持することはできなかった。特に 3 年生が 68.6%で昨年度から 10%以上減少している（8 期生：79.3%→68.6%）。また、否定的な回答が 1 年：14.3%, 2 年：6.3%, 3 年：11%と各学年とも 10%近くあり、早急な対応が必要である。 ●「⑱制限された中ではあるが、学校行事に満足している。」に対して、肯定的回答 80%以上の維持。 <table><tr><td>1 年生</td><td>2 年生</td><td>3 年生</td><td>全体</td></tr><tr><td>93.4%(92.6)</td><td>93.5%(82.2)</td><td>84.7%(93.9)</td><td>90.9%(89.6)</td></tr></table> 全体として 90.9%で、目標の 80%以上を維持することができた。体育祭や文化祭をより生徒主体で運営したことにより、生徒自身の達成感が得られ、この数値につながっていると推察する。また、各学年が趣向を凝らして実施したスポーツレクリエーション大会も、生徒の満足度の上昇につながったと考えられる。 ●「㉒外国の文化に触れる機会が多く、多文化共生が進んでいる。」に対して、肯定的回答 80%を維持する。 <table><tr><td>1 年生</td><td>2 年生</td><td>3 年生</td><td>全体</td></tr><tr><td>85.7%(87.0)</td><td>81.9%(85.9)</td><td>81.0%(93.9)</td><td>83.1%(88.6)</td></tr></table> 全体として 83.1%で、目標の 80%を維持することができた。人権文化部を中心として、授業において、多文化理解教育や多文化共生を取り入れたテーマを多数扱っている。また、文化祭や 50 周年行事で多文化研究会の活動を見る機会が増えたことも数値につながっている。 ●「㉔エンパワメントスクールに来て良かった。」に対して、肯定的回答 80%以上の維持。 <table><tr><td>1 年生</td><td>2 年生</td><td>3 年生</td><td>全体</td></tr><tr><td>93.4%(92.6)</td><td>96.1%(88.9)</td><td>90.5%(92.2)</td><td>93.5%(91.3)</td></tr></table> 1 年生 93.4%, 2 年生 96.1%（1 年次 92.6%）, 3 年生 90.5%（2 年次 88.9%）、全体としては 93.5%（昨年度 91.3%）と増加している。すべての学年で 90%以上と高い数値が出ている。 <保護者向け>回答数 141（昨年度 185） ●「⑮外国の文化に触れる機会が多く多文化共生が進んでいる。」に対して、肯定的回答 80%以上の維持 <table><tr><td>1 年生</td><td>2 年生</td><td>3 年生</td><td>全体</td></tr><tr><td>83.3%(87.8)</td><td>81.6%(91.8)</td><td>89.5%(85.5)</td><td>84.4%(88.1)</td></tr></table> ※「あてはまらない」「あまりあてはまらない」合わせて 2.8%(8.6)「判断できない・わからない」「無回答」合わせて 12.8%(3.2)	1 年生	2 年生	3 年生	全体	83.5%(89.5)	93.5%(85.2)	87.6%(92.2)	88.0%(88.8)	1 年生	2 年生	3 年生	全体	69.8%(79.0)	83.9%(77.0)	72.3%(80.9)	75.1%(78.9)	1 年生	2 年生	3 年生	全体	72.0%(76.5)	81.9%(79.3)	68.6%(88.7)	74.3%(80.8)	1 年生	2 年生	3 年生	全体	93.4%(92.6)	93.5%(82.2)	84.7%(93.9)	90.9%(89.6)	1 年生	2 年生	3 年生	全体	85.7%(87.0)	81.9%(85.9)	81.0%(93.9)	83.1%(88.6)	1 年生	2 年生	3 年生	全体	93.4%(92.6)	96.1%(88.9)	90.5%(92.2)	93.5%(91.3)	1 年生	2 年生	3 年生	全体	83.3%(87.8)	81.6%(91.8)	89.5%(85.5)	84.4%(88.1)	第 1 回 令和 6 年 6 月 29 日（土） 〈報告〉 1 教育長訪問について 2 E S（エンパワメントスクール）7 期生 卒業生の進路状況 3 E S 10 期生 新入生の状況報告 4 各学年からの報告 5 令和 5 年度学校評価及び令和 6 年度学校経営計画について 〈協議内容・承認事項等〉 1 特に力を入れていることとして、（1）「個に応じた単位制のシステムから、個を大切にする（学力不安の）学び直し・（不登校経験者も）学校生活リスタート、を可能にするエンパワメントスクールとしての進化」と、（2）「府立での日本語指導のパイオニア高校としての取組みを通じ、多文化共生社会の主体を育成する」ことをめざしている。また、学年と分掌が協働しつつ、外部人材も巻き込んだ生徒支援や教育相談が機能している現状であることなどお伝えできた。 【協議内容】「長吉高校の令和 6 年度の取組みについて」 報告内容を踏まえて委員のみなさんから、令和 6 年度における長吉高校の取組みについてご意見をいただき協議した。昨年度 11 月の調査では 280 名近い希望者が、2 月の出願者数として 214 名と激減した。私立高校の授業料無償化など中学生が高校を選ぶ環境が大きく変化しているなかで、本校の「魅力発信」「広報活動」について議論された。また、中学校の進路選択の実情など教えて頂き、在校生を使つての広報活動（母校へ戻って報告など）も効果的であるというご意見もいただいた。 第 2 回 令和 6 年 11 月 22 日（金） 〈報告〉 1 第 1 回学校運営協議会のまとめ 2 長吉高等学校 50 周年記念行事について 3 令和 6 年度 1 学期授業アンケートについて 4 分掌・学年からの報告 〈協議内容・承認事項等〉 【協議内容】「「ながよしのさらなる魅力のある学校づくりについて」 運営協議会前に授業見学を行った。その感想等も含め、各学年の取組みについて協議した。授業においては、前年度より更に I C T 教材をうまく利用し、生徒の能力に応じた授業展開をしているという意見を頂いた。 来年度の選抜では府下 1500 名の募集人数減少、また私学の授業料無償化や通信制高校への進学希望が増えているなかで、長吉のさらなる魅力ある学校づくりについてどんな事ができるか協議した。例えば、地域との連携は大切で、その地域の行事が高齢化もあり、成り立っていかなくなってきている。そういった行事に高校生が参加することでかなりアピールになる。そのような取組みを授業に取り入れるなど、学校全体として取組むことで、生徒もより実践的な力をつけることができる。今いる生徒をしっかり育てることが将来的にいいアピールにつながることもある。など様々なご意見をいただいた。 第 3 回 令和 7 年 1 月 24 日（金） 〈報告〉 1 令和 6 年度 第 2 回学校運営協議会のまとめ 2 令和 6 年度 2 学期授業アンケートについて 3 令和 6 年度 学校教育自己診断について 4 令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価について 5 令和 7 年度 学校経営計画について 〈協議内容・承認事項等〉 2 2 学期の授業アンケートについて <アンケートの概要> ・アンケートの回答者数は 475 名で回収率は 86%であった。 ・アンケートは 9 つの質問で構成され、うち 2 つの質問は生徒の興味・関心、達成感を問う質問で府下共通の質問である。満点は 4 点となっており、本校の学年ごとの平均点は、⑧興味・関心の項目で 3.42 点、⑨達成感の項目で 3.46 点と非常に高い。 <アンケートの結果と分析> 本校の教育課程は 1 年生では 30 分の国数英のモジュール授業を中心とした「学びなおし」の科目が多く、少人数講座が多い。2 年生になって必修科目
1 年生	2 年生	3 年生	全体																																																						
83.5%(89.5)	93.5%(85.2)	87.6%(92.2)	88.0%(88.8)																																																						
1 年生	2 年生	3 年生	全体																																																						
69.8%(79.0)	83.9%(77.0)	72.3%(80.9)	75.1%(78.9)																																																						
1 年生	2 年生	3 年生	全体																																																						
72.0%(76.5)	81.9%(79.3)	68.6%(88.7)	74.3%(80.8)																																																						
1 年生	2 年生	3 年生	全体																																																						
93.4%(92.6)	93.5%(82.2)	84.7%(93.9)	90.9%(89.6)																																																						
1 年生	2 年生	3 年生	全体																																																						
85.7%(87.0)	81.9%(85.9)	81.0%(93.9)	83.1%(88.6)																																																						
1 年生	2 年生	3 年生	全体																																																						
93.4%(92.6)	96.1%(88.9)	90.5%(92.2)	93.5%(91.3)																																																						
1 年生	2 年生	3 年生	全体																																																						
83.3%(87.8)	81.6%(91.8)	89.5%(85.5)	84.4%(88.1)																																																						

●「⑰担任やその他の先生に相談しやすい。」に対して、肯定的回答 70%以上の維持。

1 年生	2 年生	3 年生	全体
59.3%(62.2)	61.2%(67.3)	68.4%(79.0)	62.4%(69.2)

※「あてはまらない」「あまりあてはまらない」合わせて 19.9%(26.5)「判断できない・わからない」「無回答」合わせて 17.7%(4.3)
今年度は 62.4%で昨年度から 7%減少している。（昨年度 69.2%）。学年別にみると 1 年：59.2%, 2 年：61.2%, 3 年：68.4%で、学年を重ねるに従い保護者の信頼が増していることがわかる。また、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と否定的な回答は全体で 19.9%となり昨年度の 26.1%から 6%減少している。学年別では 1 年：24.1%、2 年：26.6%、3 年 15.8%である。

＜教職員向け＞ 回答数 64（100%）

●「③今年度、電子黒板等 I C T 機器を活用し、授業を行った。」に対して、肯定的回答は

よくあてはまる	ややあてはまる	全体
67.2%(63.5)	29.7%(27.0)	96.9%(90.5)

●「⑳教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」については、
今年度は 82.8%で 5%増加した（昨年度 77.7%）。学校教育自己診断やアンケート、提案などを具体的な指導方針や方法として速やかに盛り込んでいったことがつながっている。

＜教育庁等の指示により、この数年間で追加した項目について＞

◆いじめについて

＜生徒対象＞

⑭先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」に対して、肯定的回答は、

1 年生	2 年生	3 年生	全体
73.1%(84.0)	67.7%(83.0)	57.0%(87.8)	66.8%(84.7)

※「あてはまらない」「あまりあてはまらない」 7.6% 「判断できない」 25.4%
今年度は 66.8%で大きく減少している（昨年度 84.8%）が、「判断できない」と回答した生徒は 25.4%で、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と否定的な回答をした生徒が 7.6%（昨年度 19.9%）を考えると、90%の生徒は肯定的な回答と考えることができる。いじめや差別に対して教職員がアンテナを張り、丁寧に対応していることで生徒の教職員に対する信頼が少しずつ大きくなっていることの表れだと思われる。

＜保護者対象＞

●「㉔学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」に対して、肯定的回答は

1 年生	2 年生	3 年生	全体
46.3%(70.3)	38.8%(67.3)	50.0%(66.1)	44.7%(68.1)

※「あてはまらない」「あまりあてはまらない」 13.4%(24.9)「わからない」 41.1%(7.0)
今年度は 44.7%と大きく減少している（昨年度 68.1%）が、「判断できない」と回答した保護者は 41.1%であった。また、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」は 13.5%と昨年度から 10%減少しており（昨年度 24.9%）、学校の対応について保護者に理解を得られている。

＜教員対象＞

●「㉓生徒間のいじめや差別につながる行動については未然防止に努め、事象が起きた場合には丁寧にかつ迅速に対応している。」に対して、肯定的回答は、

よくあてはまる	ややあてはまる	全体
64.1%(60.3)	29.7%(38.1)	93.8%(98.4)

今年度は 93.8%（昨年度 98.4%）で高い数値を維持している。また、否定的な回答をした生徒は今年度は 7.6%（昨年度 13.9%）と減少しており、一定の成果があった。ただ、すべての生徒が安心した学校生活を送れるようさらに努めなければならない。

◆校則・指導について

＜生徒対象＞

●「㉞校則や指導について、納得できる。」に対して、肯定的回答は、

1 年生	2 年生	3 年生	全体
54.4%(62.3)	63.9%(46.7)	44.6%(58.3)	54.6%(56.1)

1 年生 54.5%, 2 年生 63.9%（1 年次 62.3%）, 3 年生 44.6%（2 年次 46.7%）、全体としては 54.6%（昨年度 56.0%）であった。半数程度の生徒が否定的な回答をしている。引き続き校則や指導の意味を丁寧に説明し、ルールや校則が自分たちのためであり、自

が増えて、授業内容の難易度が上がることから、授業のわかりやすさに関しては、1 年生は数値が高く、2 年生で落ち込む「2 年次ギャップ」と呼ばれる現象があった。また、3 年生になって総合学科の選択科目数が増えることから興味・関心が高くなるという傾向があった。しかし、今回は授業アンケートの評価が全学年ともに上がっており、2 年次ギャップも少なくなってきた。

科目数は 102 科目あるが、およそ 1／3 にあたる 36 科目で興味・関心、達成感が高かった。（4 点満点中、⑧⑨の平均が 3.5 点以上）

今回のアンケートで全体的に数値が高くなった背景には、教員自身のスキルアップや I C T の活用があると考えられる。公開授業期間を活用し、授業見学も活発におこなわれている。今後は、さらに「考える力」を身につける授業展開やグループワークで「主体的・対話的で深い学び」を重視していくなど、各々の教員の自己研鑽の意識を高める必要がある。

4 令和 6 年度学校経営計画及び評価

- ・昨年度に続き、学校教育自己診断の数値は上昇している。
- ・R 7 年度の選抜志願者数に見られたように、本校生徒の満足度の高まりが、学校の魅力向上→志願者数維持に繋がったように感じている。
- ・生徒指導上の懲戒件数は微減した。入学生徒層の変化や、生徒対応をチームで協力しあっていることも大きな要因。
- ・エンパワメントスクールに来て良かったと感じる生徒が今年も 90%以上を達成した。これは、「学び直し」「わかる授業」「各種行事の満足感」など、教職員の取組みの成果である。
- ・課題点は、「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」「担任やその他の先生に相談しやすい」について肯定的割合の向上、自主活動の伸長、ルーツ生とそれ以外の生徒との交流を増やすといった取組みが必要である。また、I C T で業務の円滑化を更に進めることや、業務ストレスを感じている教員への対処など引き続きの課題として対処する必要がある。

5 令和 7 年度学校経営計画

- ・本校の強みである「安全安心に学べる環境づくりと進路保障の実現」と「人権・多様性を尊重する教育の推進」を柱として記載する枠組みを継続する。
- ・また、昨年から「選ばれる学校へ」魅力発信を課題とする中、自主活動（生徒会・部活・ボランティア）が活性化し、SNS を使った高校 P R も始めることができた。更なる工夫を試みていく必要がある。
- ・学校力の向上として、新システムや I C T の活用を模索することで、事務作業時間を軽減し生徒と向き合う時間を確保する。また、人材育成（ミドルリーダー・経験年数の少ない教員）、同僚性の向上により働き方改革を促進していく。

【協議内容】「学校経営計画及び学校評価について」

令和 6 年度学校教育自己診断の結果もふまえながら、学校経営計画及び学校評価についての議論がなされた。先生方の日頃からの生徒への対応、指導がきめ細かく行われていることが、教育自己診断の結果に反映されており、一定評価された。生徒募集に苦慮する条件が多く、「中学生から選ばれる学校」であるために、情報発信が大切であるという意見をいただいた。その中で、委員からは 50 周年記念行事での生徒の舞台発表が素晴らしい、また舞台を応援する生徒たちの姿勢もよかったという感想をいただいた。大人とのコミュニケーションや他者との関係をうまくとる、そういった力を育てることが高校の使命ではないかというご意見をいただいた。また、保護者や地域を巻き込んで学校を盛り上げるような取組みを中学校とも連携して行っていくことや、SNS などを活用して外へ向けての情報発信や魅力発信に尽力してほしいというご助言をいただいた。

分を守ることにつながると思えるようなルールや指導内容を考えていくことが課題である。

＜保護者対象＞

- 「㊤学校の校則や指導方針に共感できる。」に対して、肯定的回答は

1 年生	2 年生	3 年生	全体
72.2%(66.2)	67.3%(67.3)	71.1%(74.2)	70.2%(69.2)

※「あてはまらない」「あまりあてはまらない」19.1%(27.6)

「わからない」9.9%(3.2)

1 年生 72.2%, 2 年生 67.3%（1 年次 66.2%）, 3 年生 71.1%（2 年次 67.2%）、全体としては 70.2%（昨年度 69.2%）と一定の理解は得ている。また、否定的な回答が 16.4%（昨年度 27.6%）となった。

◆ 学校へ行く楽しみについて

＜生徒対象＞

- 「㊤学校に行くのは楽しい。」に対して、肯定的回答は、

1 年生	2 年生	3 年生	全体
69.8%(77.8)	69.7%(68.9)	67.8%(69.6)	68.8%(72.3)

1 年生 69.8%, 2 年生 69.7%（1 年次 77.8%）, 3 年生 67.8%（2 年次 68.9%）、全体としては、68.8%（昨年度 72.3%）と減少している。

＜保護者対象＞

- 「㊤子どもは学校に行くのを楽しみにしている。」に対して、肯定的回答は、

1 年生	2 年生	3 年生	全体
79.6%(74.3)	77.5%(71.4)	73.6%(79.0)	77.3%(75.1)

1 年生 79.6%, 2 年生 77.5%（1 年次 74.3%）, 3 年生 73.6%（2 年次 71.4%）で、全体としては 77.3%（昨年度 75.1%）と横這いである。生徒と保護者の感覚では、多少のずれが生じている。

◆エンパワメントスクールへの満足度

＜生徒対象＞

- 「㊤エンパワメントスクールに来てよかった。」については、

1 年生 93.4%, 2 年生 96.1%（1 年次 92.6%）, 3 年生 90.5%（2 年次 88.9%）、全体としては 93.5%（昨年度 91.3%）と増加している。すべての学年で 90%以上と高い数値が出ている。

＜保護者対象＞

- 「㊤子供をエンパワメントスクールへ入学させて満足している。」については、1 年生 83.3%, 2 年生 83.7%（1 年次 87.7%）, 3 年生 92.1%（2 年次 85.7%）、全体としては 85.8%（昨年度 88.1%）と横這いである。

【令和 6 年度〈全体を通して〉】

・昨年度から、全体として高い評価を得られている。このことは学校側の取組みや指導方針が生徒や保護者に理解されていると考えられる。特に学校行事については 90%の生徒が満足している。この数値を維持しながら、改善する部分に取組んでいかなければならない。そういった取組みを学校全体で考え、実行していくことが今後の課題である。特に「担任やその他の先生に相談しやすい」の否定的な回答が生徒は 10%、保護者は 20%あり、早期に改善が必要な課題としていかなければならない。そのことは、校則についての生徒の納得、保護者の理解にもつながっていくと考えられる。

・教育庁（旧の再編整備課）による以前の分析によると、「㊤長吉高校の授業はわかりやすい」「㊤自分の考えや意見を伝える力がついた」「㊤先生の指導は納得できる」「㊤学校行事に満足している」等の項目と「学校満足度」を問う項目は相関関係があるといわれ、今年度も㊤㊤㊤の項目が、高い数値となり、満足度は昨年度初めて 90%を超えたが、今年度はそれを上回る 93.5%の高い数値であった。エンパワメントスクールの達成目標である「エンパワメントスクールに来てよかった」が 90%以上を維持することができたことは、教職員がこの数字に満足することなく、学校全体として、日々の取組みが評価されたと考えられる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 基礎・基本の定着とわかる授業づくり	(1) 「わかる授業」づくり ア 「わかる授業」づくりのための授業改善	(1) ア・生徒の学習状況（実態）に基づいて授業の見直しを行う。その際、取組みの工夫を各教科で提案し教員全体で共有する。	(1) ア・他校の参考になる授業等を見学し、教科共有する取組を1回以上実施する。〔1回〕 ・公開授業週間を年間2回以上実施し、それらを活用し教員相互の授業見学を2回以上実施する。〔公開授業週間3回、授業見学2.7回〕	(1) ア・ESの5教科研究授業が実施停止となった。授業アンケートの結果を共有し、教科毎での協議の機会を持った。(△) ・6月、11月及び1月に3回の公開授業週間を実施し、教員相互の授業見学を一人平均2.4回実施。(○)
	イ 自尊感情が高まり、やればできると実感できる授業の実施 (2) 「考える力が身に付く授業」づくり ア 「考える力が身に付く授業」づくりのための授業改善 イ 生徒のコミュニケーション能力等の向上	イ・学びなおし、習熟度・少人数クラスの利点を活かし、授業満足度を高める。 (2) ア・新学習指導要領に沿って「考える力を生徒自らが身に付けることができる授業」の開発に取り組む。 イ・教育活動全体通じて、生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばす。	イ・自己診断（生徒）の授業満足度 80%以上の維持。〔88.8%〕 (2) ア・「考える力を育む授業」「多面的な評価方法」について少数での意見交流ができる教員研修を2回以上実施する。〔2回〕 イ・自己診断「自分の考えや意見を伝える力がついた」（生徒）の肯定的回答 70%以上の維持。〔78.9%〕	イ・学校教育自己診断「授業のわかりやすさ」（生徒）の肯定的回答 88.0% (◎) (2) ア・エンパワメントタイム研修会に代わり基礎力診断テスト合同分析会の結果を基に、各教科毎での意見交流を行った。(△) イ・学校教育自己診断「自分の考えや意見を伝える力がついた」（生徒）の肯定的回答 75.1%(○) 【自己評価】三年を経た観点別学習評価を総括し次年度に活かしていく。ESならではの取組みを活かし、生徒の力を更に高めていく工夫と改善を図る。
2 安全安心で魅力ある学校づくり	(1) 生徒の居場所がある学校づくり ア 「誰一人取り残さない学校」づくり	(1) ア・個々の生徒・保護者に応じたきめ細かな指導を行う。 ・1学年は早期に生徒・保護者との面談を行うとともに出身中学校との連携を密にする。	(1) ア・自己診断「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」（生徒）の肯定的回答 80%以上の維持。〔80.8%〕 ・自己診断「担任等に相談しやすい」（保護者）の肯定的回答 70%以上をめざす。〔69.2%〕	(1) ア・学校教育自己診断「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」（生徒）の肯定的回答 74.3%(△) ・学校教育自己診断「担任等に相談しやすい」（保護者）の肯定的回答 62.4%(△) アンケート回答選択肢に「判断できない」を加えた影響があるが、保護者の否定的回答は10%減少している。
	イ・セーフティネットの拡充 ウ 図書室の活性化	イ・保健カウンセリング部を起点として、SC、SSWとの連携や各学年・分掌との連携を強化 ・生徒情報共有会議を更に活用し、生徒支援力を高める。 ウ・図書室を充実させ居場所を作る。	イ・生徒情報共有会議から各学期に1回、職員全体への生徒情報共有の場をもつ。 ウ・図書委員会を年1回以上開催する。〔1回〕	イ・不登校対策会議として3回実施。より丁寧に情報共有と支援に活かすことができた (◎) ウ・全体の図書委員会を1回開催。昼休み等の図書委員による図書当番も実施し、並行して「お薦め図書」MAPを文化祭前に完成させた (◎)
	(2) キャリア教育の確立 ア 外部人材を活用しながらキャリア教育の推進 イ 将来の進路や生き方について学ぶ機会	(2) ア・CCの活用で生徒・担任・進路指導部員の連携充実を図る イ・1年生から3年後を考えた進路保障に取り組む ・GS・CD・LHRなどで将来の進路や、3年間を見通したキャリア支援計画を検討し具体化する。	(2) ア・就職内定率 95%以上の維持。〔100%〕 ・外部人材を講師とする校内研修を年間1回以上実施する。〔1回〕 イ・自己診断「将来の進路や生き方について考える機会」（生徒）の肯定的回答 90%以上の維持。〔94.4%〕	(2) ア・就職内定率 100% (○) ・「福祉的就労について」研修会を1回実施。(○) イ・学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会」（生徒）の肯定的回答 93.0% (○)
	ウ 社会的自立に必要なスキル・態度の育成	ウ・問題行動の未然防止に取組み、社会的自立に必要なスキルと態度を育成する。 ・生徒が自主的にあいさつやお礼を言うように、教職員から生徒へのあいさつ等の声かけを行う。	ウ・懲戒件数を前年度程度に抑える。〔51件〕 ・自己診断「あいさつやお礼を言うようになった」（生徒）の肯定的回答 85%以上の維持。〔88.8%〕	ウ・懲戒件数は44件で、前年度から更に減少した。(○) ・学校教育自己診断「あいさつやお礼を言うようになった」（生徒）の肯定的回答 87.3%(○) 【自己評価】新入生への入学前の情報共有をはじめ、チーム学校として、不登校傾向や発達に課題を抱える生徒へのアセスメントが機能した。

3 人権・多様性を尊重する教育の推進	(1) 人権教育の推進 ア 人権尊重に貫かれた教育を徹底し、いじめや差別の未然防止	(1) ア・「互いの違いを認め合う」こと、人権尊重の知識と態度を養い、すべての教職員が授業・生活指導の場面で取組んでいく。	(1) ア・年3回のいじめアンケートを実施し、課題のある事象への早急な対応を行う。 ・自己診断「エンパワメントスクールに来て良かった」(生徒)の肯定的回答 80%以上の維持。[91.3%]	(1) ア・23年生は3回、1年生は4回実施。対人関係の早期修復・改善に努めた(○) ・「エンパワメントスクールに来て良かった」(生徒)の肯定的回答 93.5%(◎)
	イ G S、C Dを始め様々な教育活動を行う。 (2) 多文化共生教育の推進 ア 渡日生、帰国生の母語保障及び日本語指導を推進 イ 多文化共生を体感する機会を創出	イ・3年間を見通した人権教育計画を作成し産業社会と人間、G S、C D、H R等の取組みを通じ、様々な人権課題を学習する。 (2) ア・増加の一途であるルーツ生に対し、個々に応じたきめ細かな指導(早期に生徒・保護者との面談を行うとともに出身中学校・関係機関との連携)を行う。 イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒との校内での交流を促進する。	イ・自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(生徒)の肯定的回答 90%以上の維持。[93%] (2) ア・ルーツ生に対し、学習や生活における課題を解決し、希望する進路が実現できるよう取組む。 イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒が交流できる行事を1回以上企画する。[1回] ・自己診断「多文化共生は進んでいる」(生徒・保護者)の肯定的回答 80%を維持。	イ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(生徒用)の肯定的回答 94.3%(◎) (2) ア・3年ルーツ生の卒業率は 100%、1・2年生の進級率は 97%・97%(◎) イ・50周年行事で多文化研究会が踊りを披露。また、文化祭バザーの出店や舞台でも踊りを披露した(◎) ・学校教育自己診断「多文化共生は進んでいる」(生徒・保護者)の肯定的回答 83.1%・84.4%(◎) 【自己評価】 50周年事業には多くの生徒が関わり、自己肯定感を高める契機となった。また、ミッション遂行に向けた教職員のチーム力を高める好機となった。
4 魅力発信で選ばれる学校へ	(1) なか=よし魅力発信 ア 学校行事の改善 部活動の活性化 イ ボランティア活動を活性化 ウ 学校説明会やホームページを通じた広報活動 (2) 学校力の向上 ア 校務処理システムやI C Tの活用を図り、生徒情報を一元管理 イ ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成 ウ 働き方改革の取組みを進める	(1) ア・生徒の学校行事への満足度を向上させる工夫をする。 ・新入生の部活動加入の推進に生徒部、学年を中心に全教職員で取組む。 イ・「生徒自らが主体的に活動する」機会の創造 ウ・公開授業週間に授業を公開し、保護者及び中学校の先生方に見学してもらおう。 ・H Pを通じて生徒の高校生活や授業の様子を掲載し広報活動を行う。 (2) ア・校務処理システムやI C T等の活用により、生徒情報の一元管理を図る。教職員の事務作業を軽減し、生徒に向き合う時間を確保する。 イ・日常的なO J Tや各種研修を通じて、ミドルリーダー・教職経験年数の少ない教員の資質と能力の向上を図る。 ウ・ビジネス向けのS N S等を活用し、教職員への連絡・周知事項の徹底や、会議時間の縮減を図る。 ・校務の負担感の低減、同僚性の高まりが実感できる職場づくり。	(1) ア・自己診断「学校行事に満足している」(生徒)の肯定的回答 80%以上の維持。[89.6%] イ・自己診断「学校行事や委員会活動、部活動に積極的に取組んでいる」(生徒)の肯定的回答 70%以上の維持。[77.2%] ウ・保護者や中学校教員に向けた公開授業を2回以上実施する。[3回] ・学校行事や授業の様子をH Pで紹介する。(月5回以上更新する。)[120件] (2) ア・一部の教職員に集中する校務を削減し、ストレスチェックの総合健康リスクを前年度以下とする。[107] イ・教職経験年数の少ない教職員を対象とした校内研修を学期に1回以上実施する。[6回] ウ・年間を通じて1度以上、月間の時間外勤務が45時間を超えた教員数を昨年比 20%縮減する。[29人] ・計画的に年次休暇・振替休暇の取得をする。[新規：独自アンケート]	(1) ア・学校教育自己診断「学校行事に満足している」(生徒)の肯定的回答 90.9%(◎) ※修学旅行参加率(95%)、体育祭・文化祭アンケートの満足度は共に 98%(◎) イ・学校教育自己診断「学校行事や委員会活動、部活動に積極的に取組んでいる」(生徒)の肯定的回答 76.8%(○) ※生徒会7ポストに11名が立候補、E S初の立会い演説会を実施(○) ウ・保護者や中学校教員に向けた公開授業を3回(6、11、1月)実施(○) ・新たに S N S(全体と3年学年)での情報発信を開始し、ブログ等で月8回以上の情報を更新[150件](◎) (2) ア・ストレスチェックの総合健康リスク 96(◎) ※進路指導部でI C T等を活用し業務改善を行った。また、情報共有シートで効果的に生徒支援を行うことができた イ・教員研修を6回実施(○) ウ・45時間超の教員数は昨年度比 90%[26人](△) 部活動が活発になったことも一因。 ・計画的な休暇の取得に関する肯定意見は約 64%(○) 【自己評価】 教職員の積極的な働きかけに、生徒が主体性を発揮して行事や部活動等での満足度向上に結実。